

佐賀県「生活者としての外国人」に対する 日本語教育体制整備事業

公益財団法人佐賀県国際交流協会 + 佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

目的

佐賀県は外国人住民の散在地域であるので、地域に「生活者としての外国人」が存在しているという認識も、日本語教育の支援の必要性の認識も薄い。
今後、地域日本語教育を充実させていくためには、外国人住民の問題を地域課題として認識し、情報を共有し、地域住民との交流を推進し、地域の理解のもとで日本語教室を実施できる環境を整備していく必要がある。
地域の日本語教室を充実させることで、外国人住民が活躍できる社会づくりにつなげていきたい。

【取組1】佐賀県日本語教育連絡会議

目標

県・市町及び日本語教育関係者が県内の日本語教育について、相互理解し、情報の共有を進め、人材やノウハウの相互活用や連携した事業実施を推進する。

【第1回】 平成25年9月25日(水)午後2時～3時30分
佐賀県庁内会議室

・議題 ①会議設立趣旨説明
②委託事業全体の説明
③各出席からの現状・課題の発表
④日本語教育シンポジウムへの協力依頼について

・出席者 17名
(佐賀県国際交流課・佐賀県国際交流協会・教室のある市の職員・佐賀大学教員・ボランティア教室スタッフ・“カスタネット”)

【第2回】 平成25年12月19日(木)
午後1時30分～3時30分
佐賀県庁内会議室

・議題 ①県内日本語教室と行政との連携について
②日本語教育シンポジウムについて

・出席者 12名
(佐賀県国際交流課・佐賀県国際交流協会・教室のある市の職員・佐賀大学教員・ボランティア教室スタッフ・“カスタネット”)

成果

教室同士、行政と教室などこれまでは繋がりがなかったところに連携が生まれた。

課題

日本語教育の必要性を訴え、今後の継続開催を目指す。

【取組2】初級日本語集中講座

目標

日本語基礎文法を日本語専門家が集中的に行うことにより、日本語学習をスムーズにスタートさせる。その後、地域のボランティア教室に繋ぐことで継続的な学習、交流を促す。

1. 内容 1日6時間×6日(+交流会2時間) 計 38時間
2. 実施地域

伊万里市
武雄市
神埼市
小城市

9月実施

2月実施



	9:00～12:00	13:00～16:00
1日目	挨拶・自己紹介等・ 名詞文	動詞文
2日目	動詞文・時間・日付等	動詞文(助詞の整理)
3日目	形容詞文	形容詞文(好き・欲求)
	休み	休み
4日目	存在文・所在文・位置詞	動詞「て形」導入
5日目	動詞「て形」 (依頼・許可・繋ぎ)	動詞「ない形」 「辞書形」「た形」
6日目	動詞(普通体と丁寧体)	まとめ・発表準備 交流会(16:00～)

成果

・今まで学習する機会がなかった外国人住民に体系的な日本語学習の機会を与えた。
・その後のボランティア教室での継続的支援につなげた。

課題

・個々の学習者に適した日程調整
・開催地域での本講座の周知活動



佐賀県「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制整備事業

【取組3】日本語教育シンポジウム

目標

地域住民に日本語教室の周知および地域日本語教育の理解促進を図る。

平成26年2月1日(土) 午後1時～4時20分
佐賀市 アバンセ 第3研修室
参加者 75名

- ・米勢治子氏の講演会『「対話中心活動」の勧め』
- ・県内各日本語教室の紹介
学習者による日本語スピーチ
- ・パネルディスカッション



成果

- ・県内では初めて実施する日本語教育のシンポジウムであり日本語教室関係者はもとより地域住民や行政関係者の参加があった。
- ・県内各所の教室の活動状況報告や外国人住民のスピーチで、教室間の交流ができた。

課題

地域住民や行政関係者への更なる周知・理解の促進

【取組4】日本語支援ボランティア養成講座

目標

日本語教室の空白地域である神崎市に日本語教室を立ち上げる。

1. 講座内容:
説明会(1回)、養成講座(6回)、
ミーティング(3回)、実習(6回)
2. 対象者: 日本語支援に関心のある地域住民
3. 参加者数: 22人
4. 開催時間数: 32時間(全16回)
5. 開催場所: 神崎市中心公民館



成果

養成講座終了直後に、講座受講生が主体となり『日本語教室かんざき』の活動が始まった。

＜受講生の感想＞

- ・講座を受けて、佐賀県にも日本語に困っている外国人が多いことに気付いた。そして、日本人のボランティア心は素晴らしいと思った。仕事上、あまり参加できないかもしれないが、少しでも力になればと思う。
- ・有志の方々の思い入れをすごく感じられる有意義な講座だった。ボランティアの原点、また初心を再認識してもっと関わり、自分も成長したいと思った。メンバーの方たちもすばらしい。
- ・実際に教室立ち上げの話になり、市役所への申請、日時の設定など、何を一番に決めていかなければならないのか、混乱してきた。ほんと、大変なことですね。一つのことを社会的に起こしていくには。まだまだ日本語ボランティアはフワフワしていてしっかりつかめないが、一緒に考えていける仲間ができたことは心強い。

課題

- ・地域住民への本講座の周知活動
- ・教室立ち上げ後のフォローアップ



回	日付	取組のテーマ	内容
1	H25 9/7	説明会 講座の趣旨説明	佐賀県及び神崎市周辺地域の在住外国人の状況 地域日本語教室における日本語支援のあり方 佐賀県国際交流協会及び神崎市の教室支援体制 について
2	H25 9/14	講座① 日本語支援ボ ランティアとは	日本語を外国語として捉え、媒介語として使い交流 する。 日本語の基礎文法を知る。
3	H25 9/21	ミーティング①	これから長く付き合う人たちと仲間になる。 神崎日本語教室の枠組みを考える。
4	H25 9/28	講座② 日本語の教科 書を見てみよう	コースデザイン、シラバスについて、動詞文、助詞 について
5	H25 10/5	ミーティング②	実習にあたって、担当を決める。
6	H25 10/12	講座③ 日本語の教科 書を使ってみよう①	「にほんごこれだけ」を使って、様々な練習方法、隠 れ文法を知る。グループに分かれて、テキストの担 当課について話し合う。
7	H25 10/19	ミーティング③	教室の名称、代表、会計、活動場所、日程について。 実習の担当とトピックの確認。
8	H25 10/26	講座④ 日本語の教科 書を使ってみよう②	一般的な授業の流れを知り、教案を作成する。 トピックについてグループに分かれて具体的に教案 を作る。
9	H25 11/16	実習①	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語支援を 行う。その後、見学者の意見も聞きながらの反省会 を行う。
10	H25 11/23	実習②	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語支援を 行う。その後、見学者の意見も聞きながらの反省会 を行う。
11	H25 11/30	実習③	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語支援を 行う。その後、見学者の意見も聞きながらの反省会 を行う。
12	H25 12/7	講座⑤ 実習後の感想、 次回の実習準備	「標準的なカリキュラム案」の使い方説明。次回のト ピックへ向けての改善点を話し合う。グループワ ークで教案を作成する。
13	H25 12/14	実習④	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語支援を 行う。その後、見学者の意見も聞きながらの反省会 を行う。
14	H26 1/11	実習⑤	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語支援を 行う。その後、見学者の意見も聞きながらの反省会 を行う。
15	H26 1/18	実習⑥	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語支援を 行う。その後、見学者の意見も聞きながらの反省会 を行う。
16	H26 1/25	講座⑥ 今後の活動に 向けて	講座全体を通しての感想、日本語ボランティアとし て心がけること、来月からの活動について活動者主 体で話し合う。